

2019 年度 日本木材学会中部支部大会（愛知）実施報告

名古屋大学大学院生命農学研究科

松尾美幸

静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター

池田潔彦

2019 年度日本木材学会中部支部大会は、令和元年 10 月 3 日（木）～4 日（金）、愛知県のポートメッセ名古屋で開催されました。

大会 1 日目は、評議委員会、研究技術発表（展示発表 口頭発表）、懇親会が行われ、大会 2 日目の午前は同会場で開催中の日本木工機械展の見学会が行われました。また、同日午後には、京大大学生存圏研究所、男女共同参画推進委員会が主催の、第 408 回生存圏、第 4 回 G E C、第 43 回持続性木質資源工業技術研究会の合同シンポジウム「森林資源の有効利用を目指す多角的研究の現状（男女共同参画との連携）」が開催され、中部支部は後援行事として参画しました。

研究・技術発表の参加者数は、68 名（うち学生が 24 名）とほぼ例年並みであり、口頭発表では 2 会場において 10 件と 9 件の発表が行われました。引き続き行われた展示発表では 17 件の発表がありました。発表内容は、木材の物性、材質、非破壊評価手法、強度特性、耐久性向上手法、乾燥技術、木質構造、化学加工処理、抽出成分利用、組織構造解析など、基礎から実用化まで多岐の範囲にわたり、各会場では活発な質疑応答が行われました。

中部支部では、2013 年度大会から優秀研究発表に対する表彰制度が設立されました。本大会では以下 4 件が選考され、懇親会場で発表者に表彰状と記念品の授与が行われました。

口頭発表

- ・湿熱回復による木材の寸法変化メカニズム～DMSO 膨潤および乾燥収縮との関係
（名大院生命農）陳碩也、松尾美幸、吉田正人、山本浩之
- ・モノリグノールの脱水素重合に及ぼす有機溶媒の効果
（富山県大工）山下綾菜、岸本崇生、濱田昌弘、中島範行、占部大介

展示発表

- ・近赤外光イメージング法を用いた乾燥過程における水分移動機構の研究
（名大院生命農）森田弦喜、馬特、土川覚、稲垣哲也
- ・込み成形法によるセルロースナノファイバーと成形
（三重大生物資源）村瀬遙香、野中寛

懇親会は、“ワイン食堂ウノ名駅 4 丁目店”で開催され 31 名（うち学生 13 名）の参加がありました。名古屋大学の松下泰幸准教授の司会進行により、中部支部長の岐阜大の光永徹教授、学会副会長の名古屋大土川覚教授の挨拶後、前学会会長の福島和彦教授の乾杯で始まりました。その中で、本年度の中部支部地域功労賞が三重県林業研究所所長の野々田稔郎氏に「地域林業・林産業の活性化に向けた研究開発とその普及活動」の業績により贈られました。また、優秀発表の表彰も行われました。最後に次期開催地である三重県を代表し、三重

大学の野中寛教授の中締めでお開きとなりました。

大会2日目の午前は、日本木工機械展の見学会が行われ、先進の木材機械加工装置など多様な企業・団体等の展示を見学することができました。なお、本年度はポートメッセ名古屋の1号館から3号館まで会場となり、3号館では産学官連携研究や木材工業や木造建築関連の企業団体等のブース展示やポスター展示も行われました。2日目の午後（13時～16時30分）は、冒頭に記したシンポジウム「森林資源の有効利用を目指す多角的研究の現状（男女共同参画との連携）」が開催され、6名の演者により以下の講演が行われました。

- ・改質リグニンを用いた耐熱シート材および繊維強化複合材の開発

産業技術総合研究所 蛭名武雄氏

- ・樹木の重量ストレス応答から知る細胞の機能

森林総合研究所 相蘇春菜氏

- ・国産早生樹の建材用途への利用

パナソニック（株）R&Dセンター 波多江英美子氏

- ・植林地の効率的な管理を目指したマイクロ波衛星画像による下層植生密度の推定

玉川大学農学部 小林祥子氏

- ・木質バイオマス返還に貢献するマイクロ波加熱技術

京都大学生存圏 三谷友彦氏

- ・樹木の水分通洞はどのように維持されているのか～定説の矛盾点から考える～

神戸大学農学部 黒田慶子氏

展示発表会場と懇親会の様子

